

## キックオフイベント オンラインセッション開催報告

### イベント名

サイエンスコミュニケーションの本来の目的は何であろうか？語り手には十分な熱意があるのだろうか？また受け手はそこから何を得られているのだろうか？

開催日時 6月21日 19:00～21:00

### 登壇者など

#### 【座長】

湯浅 誠(カクタス・コミュニケーションズ株式会社), 加納 愛(カクタス・コミュニケーションズ株式会社)

#### 【演者】

黒ラブ教授(吉本興業/大学の先生芸人, 東京大学大学院情報学環), 佐伯 恵太(フリーランス俳優・サイエンスコミュニケーター), 藤田 信太郎(株式会社 日テレ アックスオン 企画戦略センター 新規事業開発部), 瀧澤 美奈子(科学ジャーナリストライター(日本科学技術ジャーナリスト会議副会長)), 森 章(東京大学先端科学技術研究センター), 武田 隆太(株式会社リバネス)

### 参加人数

142人

### 報告内容(自由に記述してください)

サイエンスコミュニケーションの本来の目的は何か？をテーマとして様々なバックグラウンドを持つサイエンスコミュニケーターの方々に集まっていたいただき、3つの議題①サイエンスコミュニケーションの一番大切な受け手(お客様)は誰か？②(もし一番大切な受け手に届いていない側面があるとしたら)今のサイエンスコミュニケーションに足りないものは何か？を軸として、ディスカッションが繰り広げられました。参加者の皆様の関心も非常に高く、コメント欄では参加者自身の経験からの意見が多数集まっただけではなく、Twitterでは#サイコムについて思うことをつけ、多くの方が意見をツイートしていました。今回のディスカッションにより、サイエンスコミュニケーションはどのような業界になっていくのか？どんなプレイヤーが必要か？理論と実践を合わせるには？双方向にするためにはどうすればよいのか？などなど、今後さらに議論を重ねていく必要がある議題が多くあることがわかりました。ただ、様々なアプローチによってサイエンスコミュニケーションを行う方々の議論により、それぞれの役割からできるサイエンスコミュニケーションがどれも必要であることもまた導き出されました。今後より多くのバックグラウンドをもつサイエンスコミュニケーターの活発な議論とサイエンスコミュニケーションの価値が評価される社会を目指す必要があると考えられます。